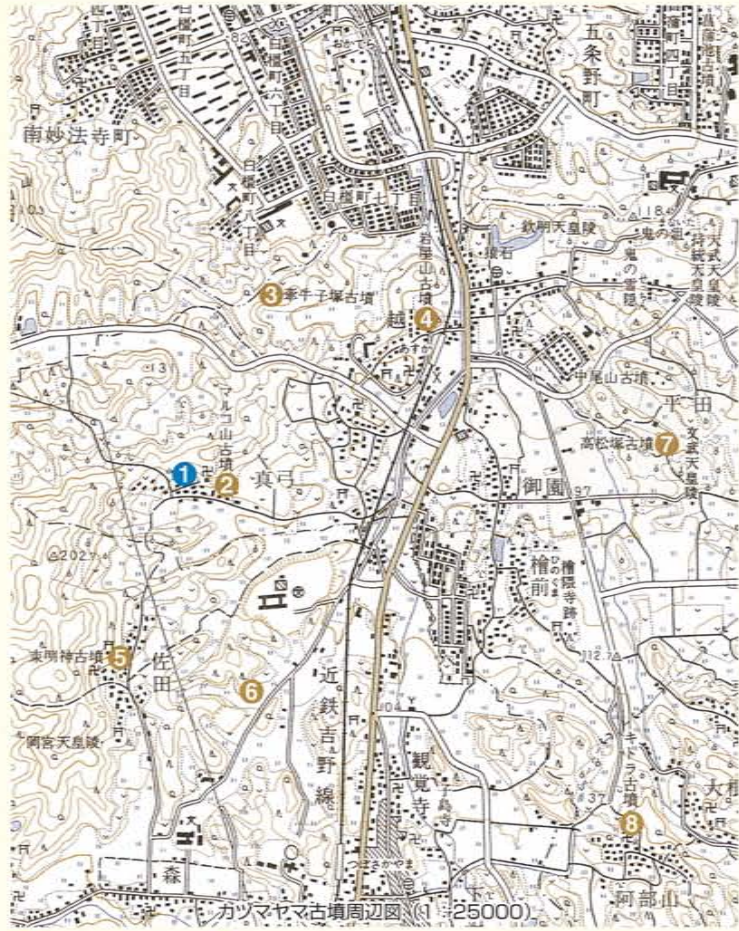


# カヅマヤマ古墳

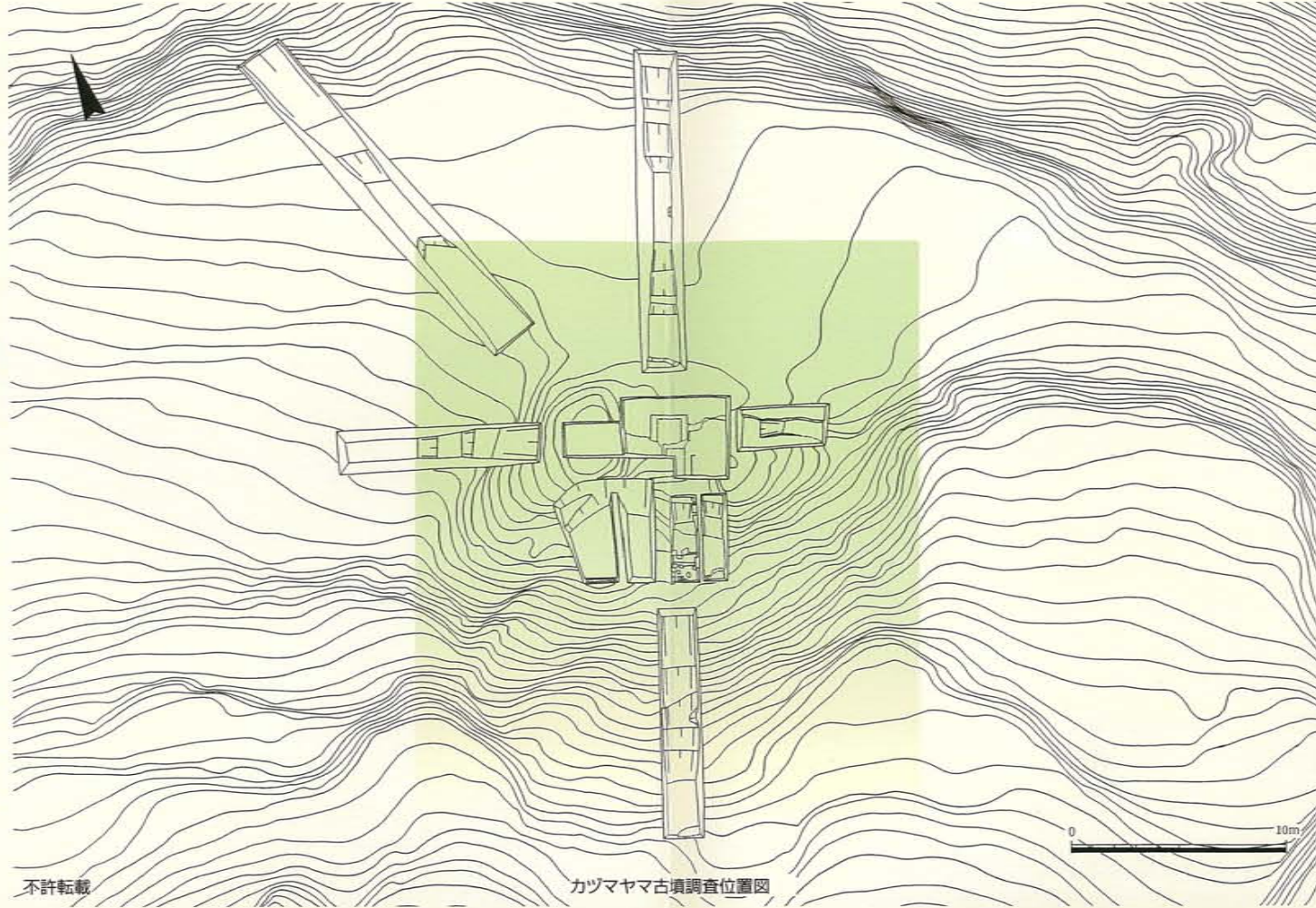


2005年12月

明日香村教育委員会



- ① カツヤマ古墳   ② マルコ山古墳   ③ 牽牛子塚古墳   ④ 岩屋山古墳
- ⑤ 東明神古墳   ⑥ 出口山古墳   ⑦ 高松塚古墳   ⑧ キトラ古墳



墳丘



盗掘坑



棺台



滑り落ちた東壁

石室全景

# カヅマヤマ古墳

## 1.はじめに

カヅマヤマ古墳は「真弓崗」と呼ばれる一角に所在する終末期古墳です。周辺にはマルコ山古墳や牽牛子塚古墳、東明神古墳等が点在しています。カヅマヤマ古墳については大正時代に刊行された『高市郡古墳誌』に「カヅマ塚」として紹介されています。現在は墳丘の東側に大きな盗掘坑が存在しており、周囲には結晶片岩の破片が多数散乱しています。これらの結晶片岩の中には板状を呈したものや、漆喰が付着したものが存在することから埋葬施設は磚積石室である可能性が指摘されていました。磚積石室についてはこれまで明日香村内では確認されておらず明日香村教育委員会ではその重要性を鑑み、カヅマヤマ古墳の全貌解明に向けて平成17年1月から範囲確認調査を実施しています。調査面積は約150㎡です。

## 2.検出遺構と出土遺物

### 【墳丘と外部施設】

墳丘は東西に延びる丘陵の南側斜面に東西100m以上、南北約60m、高さ8～10mの範囲にわたって削り出した後、平坦に造成し版築によって盛土を行っています。墳丘の規模は東西約24m、南北18m以上、高さ4.2m以上の方墳です。墳丘の背後には岩盤を削り出した幅約3mの掘り割りが存在し、その中には直径約20cmの柱跡が存在しています。この柱跡の性格については墳丘と石室の中軸線上に位置することから古墳造営の際の基準点となっていたものと考えられます。

### 【埋葬施設】

吉野川の結晶片岩で築かれた南に開口する磚積石室です。石室規模は復元長5m以上で玄室は長さ2.6m以上、幅約1.8m、高さ0.9m以上を測ります。玄室床面には長さ0.3m、幅0.2m大の切石が敷き詰められており、玄室の中央には長さ約2m、幅約1.2m、高さ約0.3mの棺台が設けられています。玄室内は床面以外すべての壁面と棺台に漆喰が塗布されています。また石材の接合面にも漆喰が使用されています。天井については残存状況から平天井ではなく、持ち送りの構造であったと考えられます。

### 【地滑り跡】

墳丘のほぼ中央部から南側にかけて地滑り跡を検出しています。地滑りによって埋葬施設も玄室部分のほぼ中央から南側部分が最大で約2m滑り落ちています。地滑りの時期については12～13世紀代の盗掘坑が地滑りによって分断されていることからこの地滑りを誘発した地震は1361年8月3日午前4時頃に発生した正平の南海地震の可能性が考えられます。

### 【出土遺物】

出土した遺物には土師器、須恵器、漆片、鉄釘、不明鉄製品、瓦器、人骨などがあります。

## 3.まとめ

今回、明日香村内で初めて磚積石室墳を確認することができました。以下、調査成果をまとめると、①カヅマヤマ古墳は丘陵の南側斜面を東西100m以上、南北60mにわたって大規模に造成した後、版築によって墳丘が築かれています。墳丘は一辺約24mの方墳で見かけの高さが10m以上もあることから二段以上あったと考えられます。②埋葬施設は磚状に加工した結晶片岩を小口積みにした磚積石室で玄室の中央には棺台が設けられています。石室の壁面や接合面には大量の漆喰が使用されています。③築造年代については版築土内から飛鳥Ⅲ～Ⅳの土器が出土していることから7世紀後半頃と考えられます。④墳丘と石室部分は南海地震の影響を受けて大規模な地滑りを引き起こしていたことも明らかとなりました。

以上のようにカヅマヤマ古墳の成果は今後、飛鳥の終末期古墳を考える上で重要な資料となるでしょう。